

情報提供者	個人（大学院生）
-------	----------

(1) (コスト試算の対象範囲)

内容：建設中の利子について

1) 背景

コスト等検証委員会の第7回（12月13日）で、計画から稼働までの期間の資本のコストについて、委員から下記の発言がありました。

阿部委員の発言

「29 ページの各電源における計画から稼働までの期間というところで、稼働までのコストを定量化するのが難しいということで今回はコストとして上乗せしないということですが、原子力などの資本集約性が高い電源は、計画から稼働までの期間、ほとんどが資本のコストだと思うんです。これは、定量化できないということはないのではないかと考えたものですから、御質問させていただきました。」

国家戦略室の回答

「定量化するだけの各電源について十分な、我々に情報等を整理する時間がなかったということかもしれないのですが、それぞれ今回並んでいる各電源につきまして、統一的にそこを試算することができなかったという趣旨で今回は上乗せをしないという結論とさせていただいております。」

大島委員の発言

「議論が出ました大規模な発電所、原子力発電所や火力発電所のコストを見る場合に非常に重要な部分で、OECD の試算などでは入っているはずですので、一定の仮定を、特に家庭の太陽光について 利子を考えなくても、要は建設した後に決済すればいいので、ほとんど利子がかからないと見ても、現実とそんなに乖離はないと思うのですが、とりわけ建設期間が長い、かつ建設費が高い部分については、本来考慮すべきで、もし今回こういうことになったとしても、将来それは検討しないと本当はよくないのではないかと思っているところです。」

第8回（12月19日）の議事録がウェブサイトに掲載されていないので、その後の議論がどうなったのか分かりませんが、試算シートを見る限り、建設

中の利子が含まれていないようです。

## 2) 私の意見

建設中の利子を含めるべきです。

第7回の回答における阿部委員と大島委員の発言および国家戦略室の回答を考えれば、建設中の利子を含めないことは政府が意図的にコストを過小評価しようとしているとしか思えません。

## 3) 理由

民間電力会社にとって原子力があまり魅力的でない一番大きな理由の一つは建設中の利子です。現実世界で原子力の経済性を検討する投資家が建設中の利子を試算に含めないはずはないです。

## 4) 文献

スタンダード&プアーズ (S&P) の報告書の中で「Cost of Equity」と「Cost of Debt」という項目が試算に含まれています(「The Economics Of U.S. Nuclear Power: Natural Gas Prices And Loan Guarantees Are Key To Viability」August 16, 2010, Table 1)。「Cost of Equity」として、原発の場合15%と10%というレートが試算されています。原発との比較として CCGT は10%のみが試算に含まれています。「Cost of Debt」として、原発は4%と8%というレートが試算されています。(4%の方は DoE の債務保証を前提にしています。) CCGT は8%のみです。